

## 和歌山県の石庖丁

仲原知之（県立紀伊風土記の丘）

石庖丁：「磨製石器の一種。長方形、楕円形、または半月形を呈する扁平な石器で、一方の長辺に刃がついている。体の中央部に2個または1個の穿孔があって、これに紐をとおして指にかけ、穀物の穂をつむに用いる。」

『図解考古学辞典』水野清一・小林行雄編 1959

### 1. 石庖丁の各部の名称

- ◎ 刃面のある面=A面、反対の面=B面
- ◎ 各部の名称は、刃部・体部・背部と紐孔部（紐部）
- ◎ 法量は、長い方=長さ（長辺）、短い方=幅、厚さ  
紐孔部の外径（外孔径）と内径（内孔径）、孔間  
背孔・刃孔・孔端、刃幅

### 2. 石庖丁の形態

- ◎ 磨製石庖丁・打製石庖丁
- ◎ I類（外湾刃半月形）・II類（直線刃半月形）  
・III類（楕円形）・IV類（杏仁形）・V類（長方形）  
\* 背部と刃部が弧状か直線かで分類する  
→ 背：直線・刃：弧状=I類（九州主体、近畿の前期に多い）  
背：弧状・刃：直線=II類（近畿主体）  
背：弧状・刃：弧状=III類・IV類（区別つかない場合が多い）  
背：直線・刃：直線=V類（少数、II類やIII・IV類の変形の場合多い）
- ◎ 両刃・片刃  
I類に両刃、II類に片刃が多い

### 3. 石庖丁の使用法

- ◎ 穂摘み具（穂首刈り） → 紐ずれ痕（A面では2孔間、B面では背孔間）
- ◎ 使用痕分析 → B面体部・刃部に光沢痕や摩滅痕 → イネ科の植物
- ◎ 背つぶれ痕・刃つぶれ痕 → 背や刃がつぶれるくらい打ち付けた痕跡
- ◎ 孔内敲打痕 → 紐孔内部に敲打痕を残すもの → 摂津・紀伊中心

#### 4. 石庖丁の石材（近畿の場合）

- ◎ 2大石材 「結晶片岩系石材」 = 近畿南部（紀北地域）  
「粘板岩系石材」 = 近畿北部 / 紀南地域

- ◎ その他の石材 「白色系石材」

流紋岩：前期中心、大和地域主体、奈良県耳成山産・瀬戸内産？

安山岩：前期中心、河内地域主体

塩田石：摂津（三田盆地）主体

砂岩：播磨（明石川流域）主体

#### 5. 石庖丁の製作工程

- ◎ 素材 → 製作途中品（未成品・半製品） → 完成品（→ 2次使用・再加工）
- ◎ 第1段階——第2段階——第3段階——第4段階——第5段階——成品  
【素材】 【粗割】 【剥離調整】 【研磨】 【穿孔】 【完成品】

#### 6. 製作途中品率

- ◎ 製作途中品率（%）

$$\frac{\text{製作途中品} < \text{第2段階} \sim \text{第5段階} >}{\text{製作途中品} + \text{完成品}} \times 100$$

\* 素材は石庖丁用とは限らないので除く。

\* 製作途中品か完成品か判断できない小片は除く。

\* 完成品は紐孔部が残っているものだけを扱う。

（紐孔部が残っていないと研磨段階・穿孔段階の可能性もあるため）

- ◎ 各集落の製作途中品率

製作途中率は近畿の各集落ともほぼ 20%前後

→ 拠点集落の池上曾根遺跡と周辺の衛星集落も同様

→ 各集落で同じように石庖丁を製作していた

→ 石材産出地近郊で石庖丁を集中的に製作すると 80%近くになる

→ 近畿では集中的に石庖丁を製作している集落は未発見

## 7. 和歌山県の石庖丁

### ● 石庖丁の石材

主に結晶片岩系石材を利用、紀中・紀南地域で一部に頁岩系石材を利用

\*結晶片岩系：結晶片岩、緑泥片岩、緑色片岩など。

和歌山市から橋本市にかけて紀ノ川南岸に広く分布。南は有田川町付近まで産出。

\*頁岩系石材：頁岩、スレート、ホルンフェルス、泥岩など。紀南に産出地。

### ◆ 石庖丁の製作

紀ノ川流域や海南市域などの拠点的な集落からは製作途中品（未成品）が出土

→ 各集落で石庖丁を製作

→ 素材は河原や海岸の崖などで石材を採集

→ 和歌山県では他地域へ搬出できるほどの量の石庖丁を製作した集落は未確認

### ■ 石庖丁の製作と流通

◎ 紀北地域：集落近郊で石材（結晶片岩）を入手 → 各集落で製作

紀南地域：紀北地域で製作された結晶片岩製石庖丁を搬入

地元産の頁岩で石庖丁を製作する集落あり

一部でサヌカイトや頁岩製のスクレーパーなどの刃器を収穫具に転用？

◎岡村遺跡から県内で唯一の流紋岩製石庖丁（前期末から中期前葉） → 搬入品



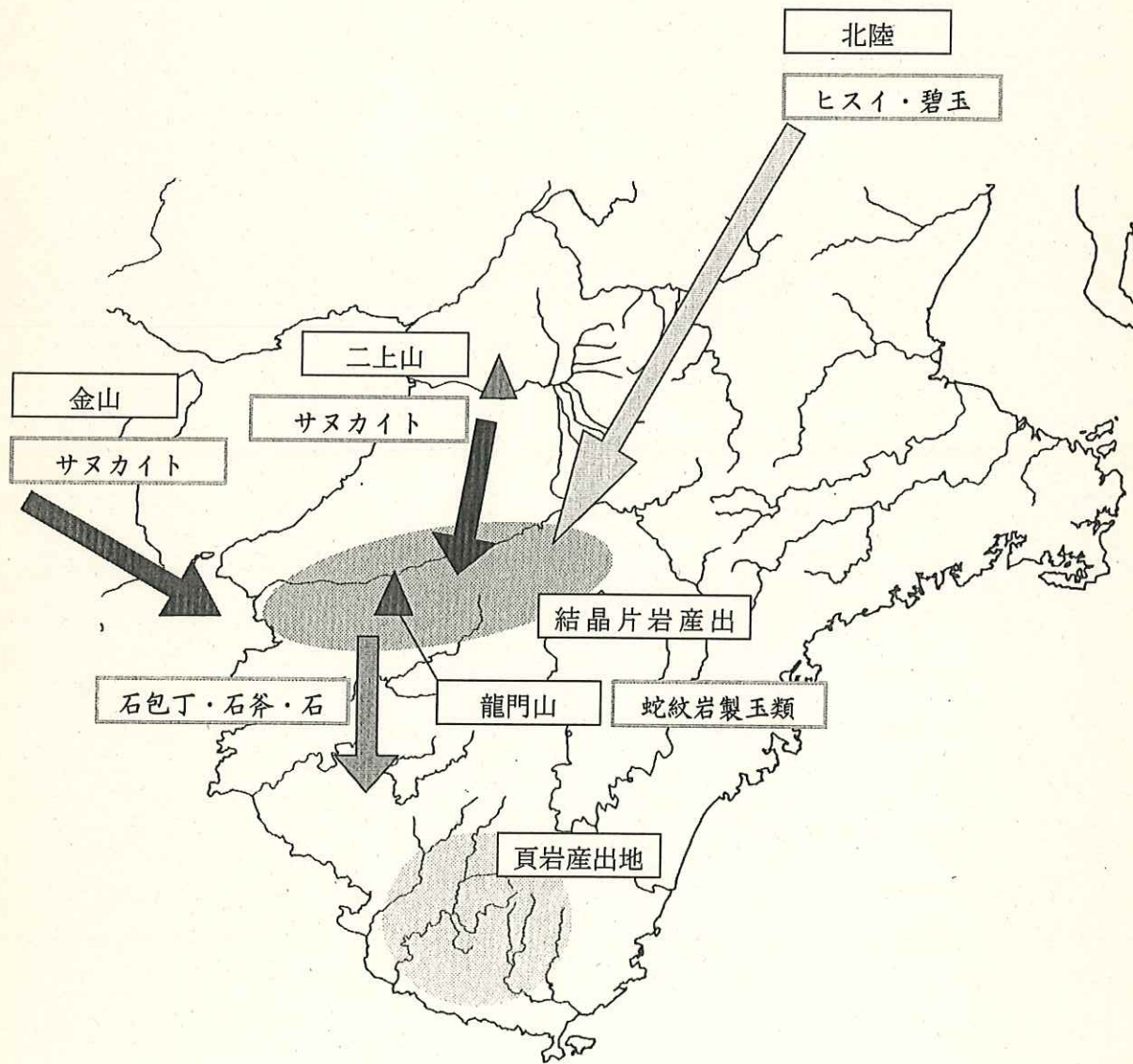
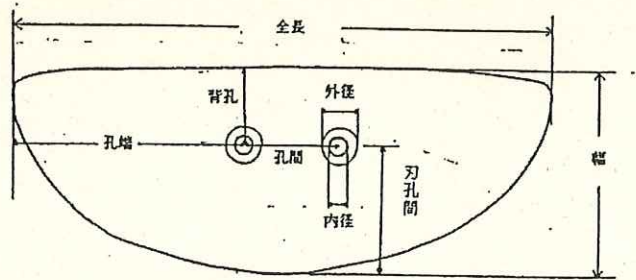
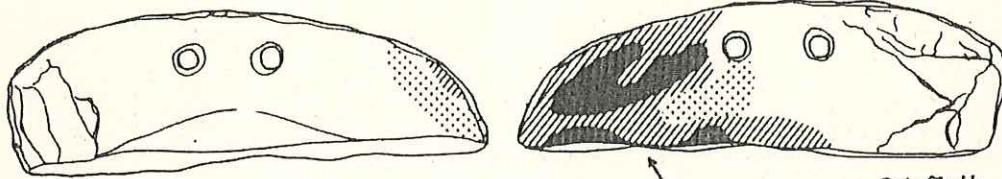


図1 和歌山県における石器石材の産出地と石材の動



石庖丁計測値 (法量)

(武末 1987 より転載)



線状痕の主な方向

S1 亀井

石庖丁使用痕

(松山 1992 より転載)

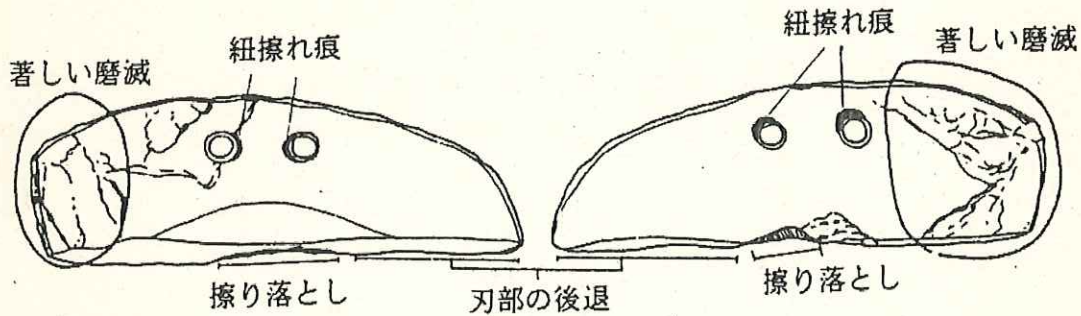
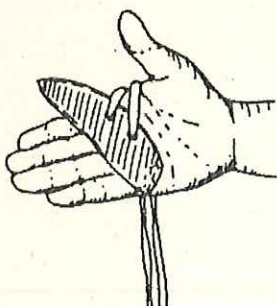
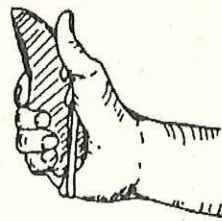


図 3 石庖丁に見られるその他の痕跡

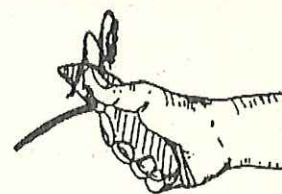
(①を例として)



(1) A面側からB面側へ紐を通し刃を立てた状態で保持する。紐は手に巻きつける。



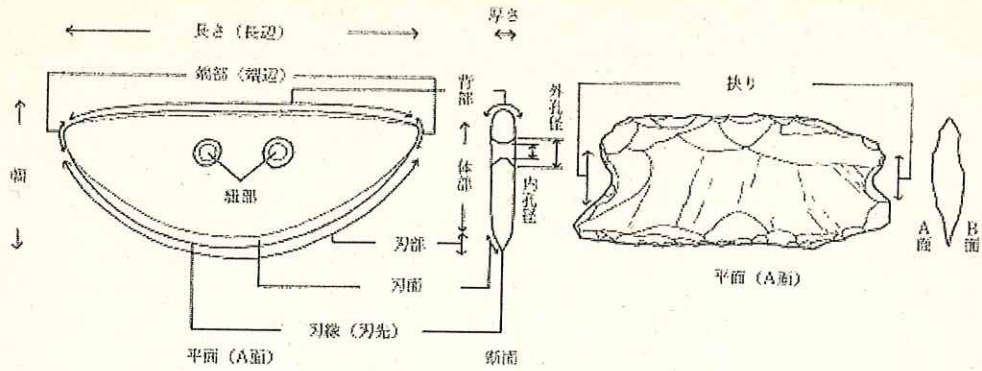
(2) 擦り落とした部分に最も力のかかる中指をあてる。下端部と掌中に振り込む。



(3) 親指で穂首を押さえ手首を回転させて刈り取る。

図 4 推定される保持法 (①を例として)

(松山 1992 より転載)



石庖丁の各部名称

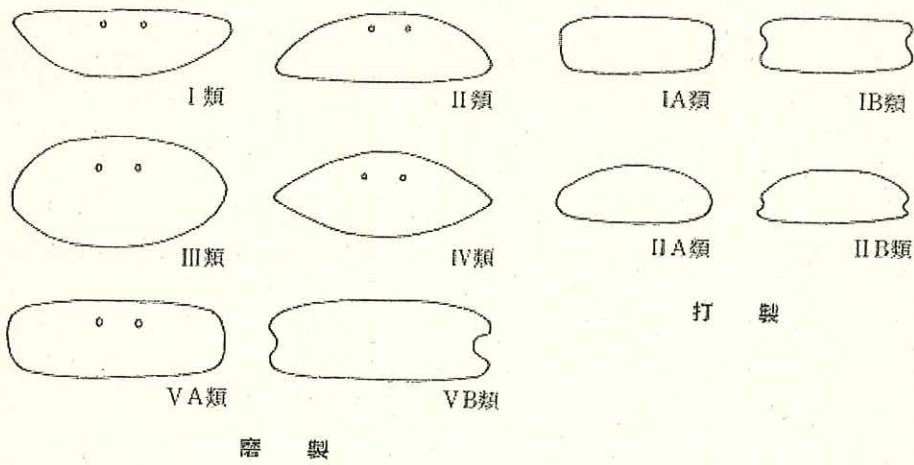


図3 石庖丁の各部名称と形態分類 (平井 1991 より転載)

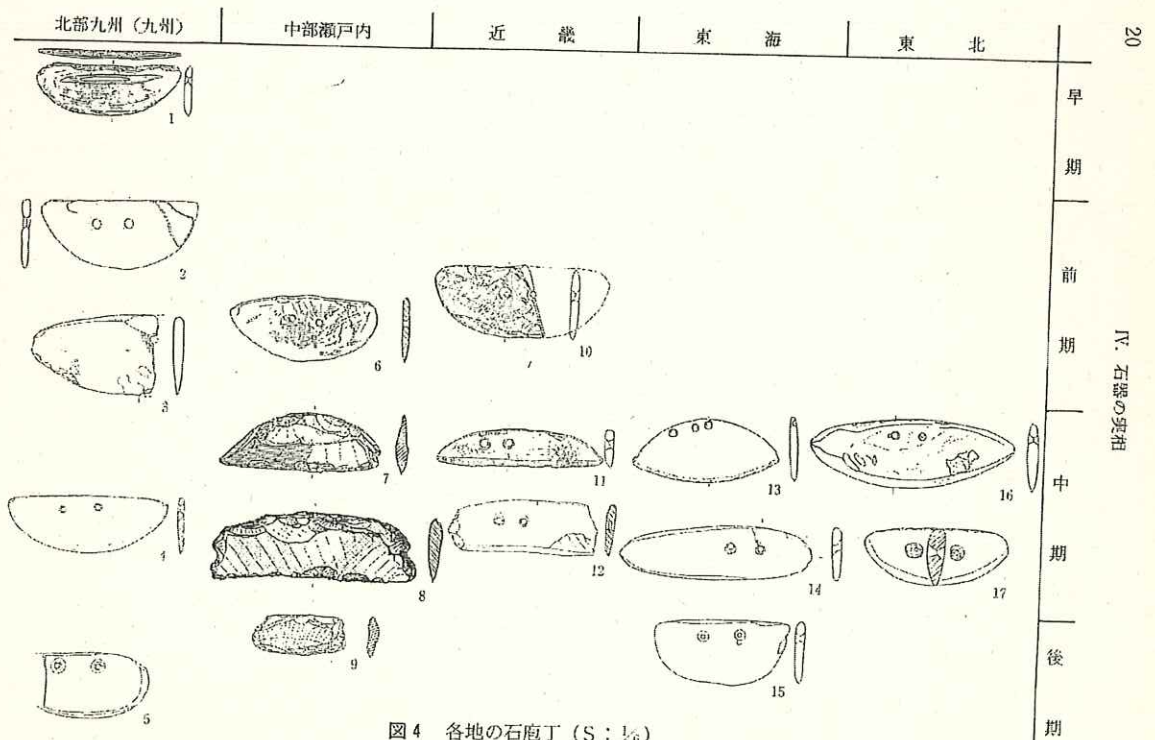
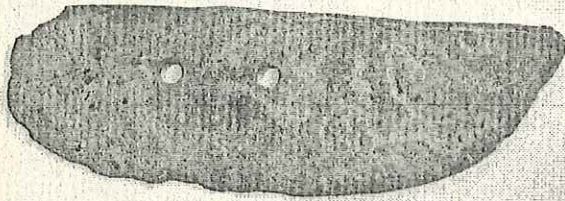


図4 各地の石庖丁 (S: 1/6)

(平井 1991 より転載)

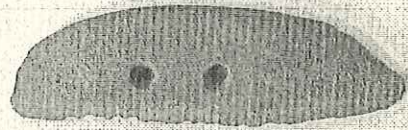
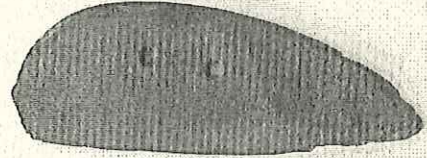
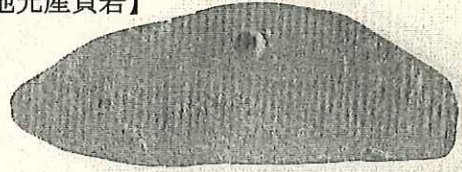


【紀北産結晶片岩】



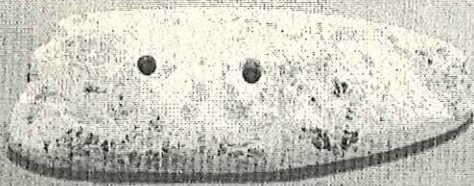
<弥生時代前期> 堅田遺跡 (御坊市)  
結晶片岩製 石庖丁 (上: 製作途中品)

【地元産頁岩】

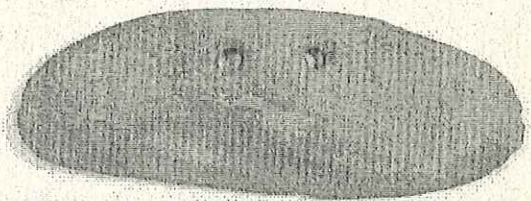


<弥生時代前期> 立野遺跡 (すさみ町)  
頁岩製 石庖丁

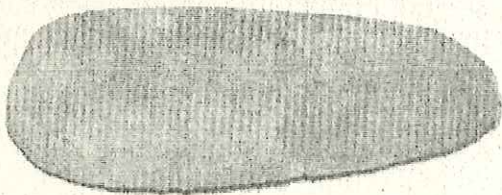
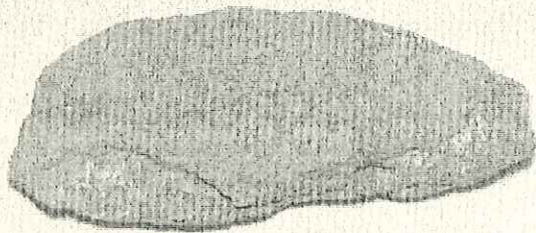
【搬入品】



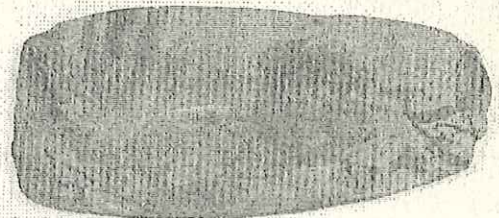
<弥生時代前期> 岡村遺跡 (海南市)  
流紋岩製 石庖丁



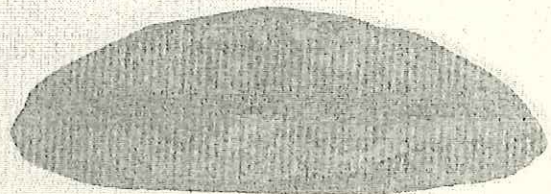
<弥生時代中期> 岡村遺跡 (海南市)  
結晶片岩製 石庖丁



<弥生時代中期> 西飯降Ⅱ遺跡 (かつらぎ町)



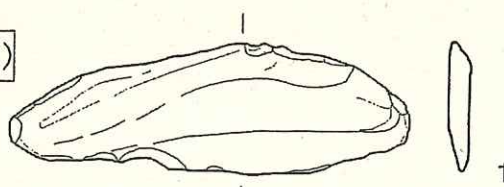
<弥生時代中期> 岡村遺跡 (海南市)  
結晶片岩製 石庖丁 (製作途中品)



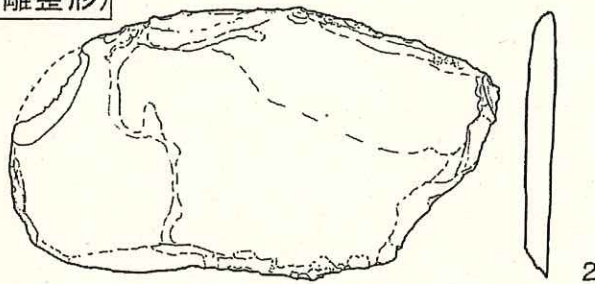
<弥生時代中期> 船岡山遺跡 (かつらぎ町)  
結晶片岩製 石庖丁 (製作途中品)



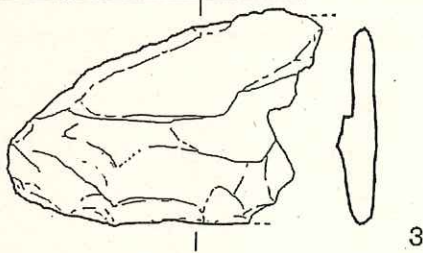
第1段階 (素材)



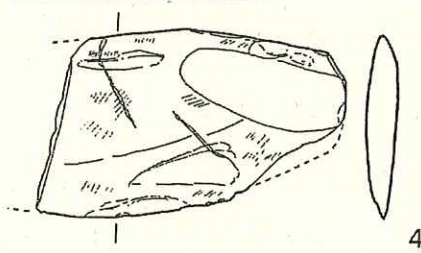
第3段階 (剥離整形)



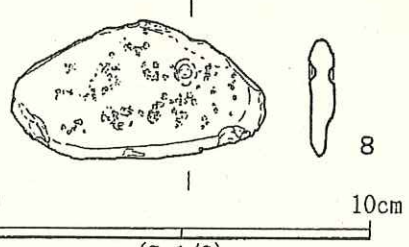
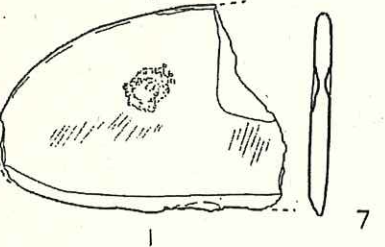
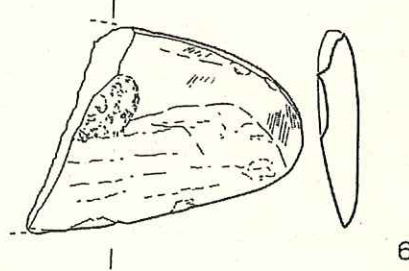
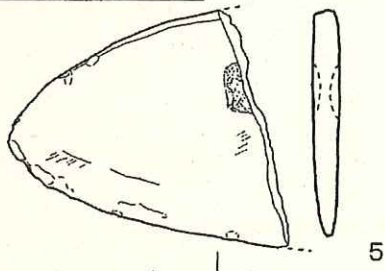
第3段階 (剥離整形)



第4段階 (研磨)



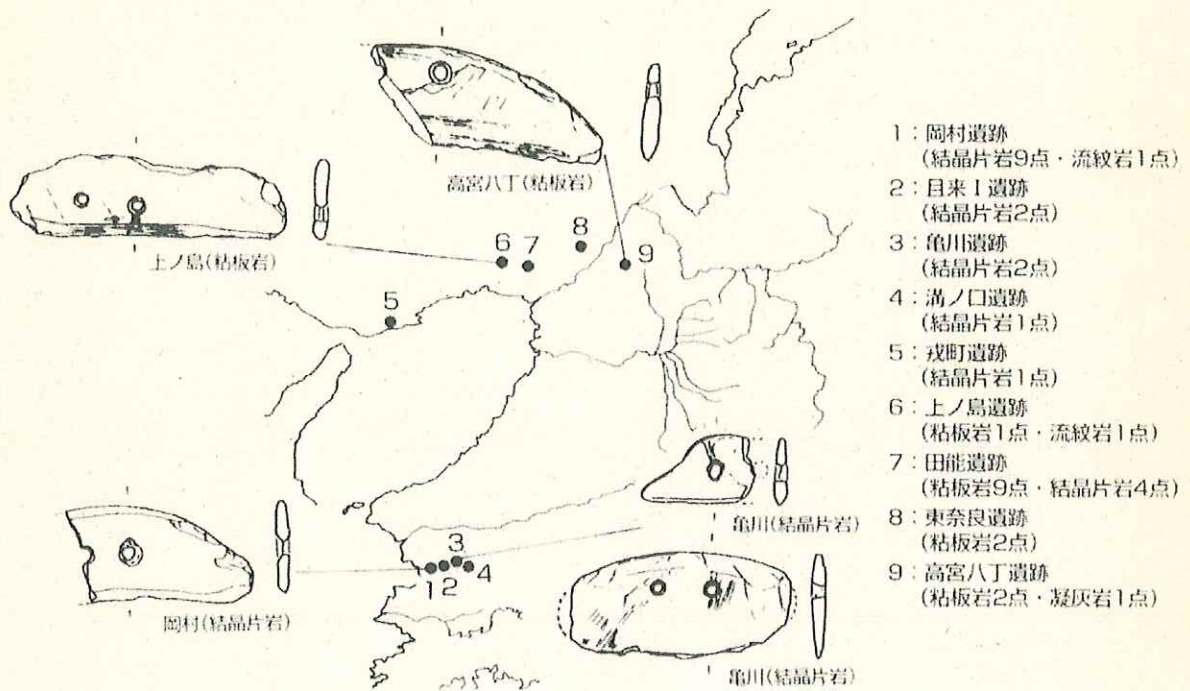
第5段階 (穿孔)



0 10cm  
(S=1/2)

図2 岡村遺跡の石庖丁素材・製作途中品  
(1は海南市教委1996、3は海南市教委1997を加筆してトレース、他は筆者実測)





孔内敲打痕を残す石庖丁の分布 <仲原2002>

\* 孔内敲打痕は紀伊と摂津地域で確認。(大阪や奈良では未確認)  
 → 海のルートを通じた交流の結果

<結晶片岩の採集候補地>

◎川原で自然石を採集



貴志川（紀の川市）の川原で採集した片岩の自然石

◎海岸などで転石を採集



毛見崎（和歌山市）の海岸沿いの露頭と転石

## 【参考文献】

- 秋山浩三 1999 「近畿における「神殿」「都市」論の行方」『ヒストリア』163 (大阪歴史学会)
- 秋山浩三 2003 「弥生時代・畿内石庖丁の生産と流通—近畿における石庖丁生産・流通の再検討 (IV) —」『道具の生産流通と地域関係の形成—縄文から弥生まで—』(古代学協会中国四国合同大会研究発表要旨)
- 秋山浩三・仲原知之 1998・1999 「近畿における石庖丁生産・流通の再検討 (I) —池上曾根遺跡の石庖丁製作工程— (上) (下)」『大阪文化財研究』15・17 ((財)大阪府文化財調査研究センター)
- 石毛直道 1968 「日本稲作の系譜 (上)・(下)」『史林』51-5・51-6 (史学研究会)
- 上田健太郎 2005 「近畿地方における直線刃半月形石庖丁の成立」『待兼山考古学論集—都出比呂志先生退任記念—』
- 魚津知克 2009 「弥生・古墳時代の手鎌—全形復原と用途の推定—」『木・ひと・文化—出土木器研究会論集—』(出土木器研究会)
- 工楽善通 1985 「木製穂摘具」『弥生文化の研究』5 (雄山閣出版)
- 小林公明 1978 「石庖丁の収穫技術」『信濃』30-1 (信濃史学会)
- 酒井龍一 1974 「石庖丁の生産と消費をめぐる二つのモデル」『考古学研究』21-2
- 坂口昌男 1996 「池上曾根遺跡出土の石庖丁」『弥生の環濠都市と巨大神殿』(池上曾根遺跡史跡指定 20 周年記念事業実行委員会)
- 下條信行 1975 「未製石器よりみた弥生時代前期の生産体制」『九州考古学の諸問題』19
- 鈴木敬二 1999 「穂摘具の多様性と石材の流通—兵庫県玉津田中遺跡におけるケーススタディー—」『国家形成期の考古学—大阪大学考古学研究室 10 周年記念論集—』
- 須藤隆・阿子島香 1985 「東北地方の石庖丁について」『日本考古学協会第 51 回総会研究発表要旨』
- 高木芳史 1999 「畿内地方の石庖丁の生産と流通」『国家形成期の考古学—大阪大学考古学研究室 10 周年記念論集—』
- 高橋方紀 1999 「太田・黒田遺跡の石器組成」『紀伊考古学研究』2
- 武末純一 1987 「石庖丁の計測値」『岡崎敬先生退官記念論集 東アジアの考古と歴史 中』
- 塚田良道 1987 「耳成山産流紋岩製石庖丁について」『同志社大学考古学シリーズ 3 考古学と地域文化』
- 都出比呂志 1979 「ムラとムラとの交流」『図説日本文化の歴史』1 先史・原史 (小学館)
- 都出比呂志 1989 『日本農耕社会の成立過程』(岩波書店)
- 寺前直人 2001 「流通論/磨製石庖丁の交易」『シンポジウム「銅鐸から描く弥生社会」予稿集』(一宮市博物館)
- 土井孝之 1997 「和歌山県の石器」『農耕開始期の石器組成 4 中部・近畿(三重・滋賀・京都・奈良・和歌山)』(国立歴史民俗博物館編)
- 仲原知之 2000 「和泉地域の石庖丁生産と流通—近畿における石庖丁生産・流通の再検討 (II) —」『洛北史学』2
- 仲原知之 2002 「弥生前期の石庖丁生産と流通—近畿における石庖丁生産・流通の再検討 (III) —」『紀伊考古学研究』5
- 仲原知之 2006 「和歌山県の石庖丁 (その 1)・岡村遺跡—近畿における石庖丁生産・流通の再検討 (V) —」『喜谷美宣先生古稀記念論集』
- 仲原知之 2010 「和歌山県の手鎌木製台 (木庖丁) の検討」『紀伊考古学研究』13
- 仲原知之 2012 「和歌山県における石器の生産と流通」『紀伊弥生文化の至宝』(和歌山県立紀伊風土記の丘)



- 福垣田佳男 1998 「石器から鉄器へ」『古代国家はこうして生まれた』(角川書店)
- 福垣田佳男 1999 「近畿地方の集落と墓の変化」『論争吉備』(考古学研究会)
- 蜂屋晴美 1983 「終末期石器の性格とその社会」『藤澤一夫先生古稀記念 古文化論叢』
- 濱野俊一 2002 「三島地域における石庖丁生産と流通～大阪府茨木市目垣遺跡における石庖丁生産問題からの二、三の提起～」『古代学研究』159
- 平井 勝 1991 『考古学ライブラリー64 弥生時代の石器』(ニュー・サイエンス社)
- 松山 聡 1992 「石庖丁の使用痕」『大阪文化財研究』3 ((財)大阪文化財センター)
- 三木 弘 2004 「池上曾根遺跡における石庖丁の推定個数—「弥生都市」論検討の前提整備—」『大阪文化財研究』25 ((財)大阪府文化財センター)
- 三好孝一 2001 「河内潟東・南縁部における弥生文化の受容と定着」『みずほ』35 (大和弥生文化の会)
- 村田幸子 1992 「畿内における石庖丁未製品の分析」『大阪文化財研究』3 (大阪文化財センター)
- 村田幸子 1992 「石材の伝播について—河内平野を中心に—」『河内平野遺跡群の動態Ⅱ 近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(大阪文化財センターほか)
- 村田祐一 1999 「北部九州地域の石庖丁をめぐって—立岩石庖丁製作技法の検討—」『山口大学文学会志』49
- 山崎頼人 2000・2001 「木製穂摘具の研究(上)・(下)—木製穂摘具における二者—」『大阪文化財研究』19・20 ((財)大阪府文化財調査研究センター)
- 山崎頼人 2003 「石庖丁と木庖丁—木庖丁の機能推定—」『水野正好先生古稀記念論文集 続文化財学論集』(文化財学論集刊行会)
- 山崎頼人 2008 「収穫具(穂摘具・鎌)」『季刊考古学』104 (雄山閣)【写真】

\*写真は特別展図録より転載(一部紀伊風土記の丘および仲原撮影分含む)